



お花見特等席 (小平グリーンロード)

平成29年3月定例会は、2月28日から3月28日まで29日間の会期で開催されました。

この定例会では、小平市議会が取り組んでいる政策課題調査の成果の1つとして議員から提出された、いきいきこだいら高齢者見守りの輪条例を制定する議案を審議し、全会一致をもって可決しました。

このほか、平成29年度の各会計予算など市長提出議案22件と、議員提出議案1件を可決し、請願は1件を採択しました。

また、3月1日から3日間にわたり、24人の議員から54件の一般質問があり、その後3月6日には、5つの会派から11件の代表質問がありました。

3月定例会

平成29年度 各会計予算を可決

都市計画マスタープラン全体構想の改定を可決

いきいきこだいら高齢者見守りの輪条例を制定しました

議事を傍聴
しませんか?

今後の

市議会の日程(予定)

開会時刻

原則として午前9時

場 所

市役所7階

傍聴される方は、
議会事務局へ
お越しください。

5月12日(金) 市民と議会の意見交換会(※1)

5月13日(土) 市民と議会の意見交換会(※1)

5月16日(火) 総務委員会

5月17日(水) 生活文教委員会(※2)

5月18日(木) 厚生委員会(※2)

5月19日(金) 環境建設委員会(※2)

5月23日(火) 請願・陳情締め切り(午前中)(※3)

6月 1日(木) 議会運営委員会(※4)

6月 6日(火) 6月定例会本会議(初日)

6月 7日(水) 6月定例会本会議(一般質問)

6月 8日(木) 6月定例会本会議(一般質問)

6月 9日(金) 6月定例会本会議(一般質問)

6月13日(火) 総務委員会

6月14日(水) 生活文教委員会

6月15日(木) 厚生委員会

請願・陳情締め切り(午前中)(※5)

6月16日(金) 環境建設委員会

6月19日(月) 広聴広報特別委員会

6月26日(月) 議会運営委員会(※4)

6月29日(木) 6月定例会本会議(最終日)

広聴広報特別委員会(※4)

7月18日(火) 広聴広報特別委員会

(※1) 詳細は、8面をごらんください。

(※2) 当日は、現地視察を予定しており、委員会での議案や請願などの審査または調査はありません。

(※3) 6月定例会初日上程の受け付け期限です。

(※4) 開始時間については、議会事務局にお問い合わせください。

(※5) 6月定例会最終日上程の受け付け期限です。

日程、開会時刻は変更や追加になる場合がありますので、事前に議会事務局までお問い合わせください。

平成29年度 一般会計予算 各特別会計予算

予算議案を審査するため、定例会初日に一般会計及び特別会計の各予算特別委員会が設置され、一般会計は3月7日から9日までの3日間、特別会計は3月10日に審査が行われました。定例会最終日には、滝口幸一一般会計予算特別委員長と山岸真知子特別会計予算特別委員長からそれぞれ審査報告があり、採決の結果、一般会計を賛成多数で、国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険事業特別会計及び下水道事業特別会計を全会一致で可決しました。(8面に「議案に対する各議員の賛否」を掲載)

市長の提案説明の概要は以下のとおりです。

〔一般会計〕

予算総額は6百8億9千7百万円で、前年度予算に比べ1.8%、11億4千3百万円の減となっております。平成29年度当初に市長選挙が予定されているた

め、4月以降の市長が新たな施策を実現する財源的な余地を残し、同時に市民生活にできるだけ影響が生じない形のいわゆる骨格予算としました。

〔歳入〕

市税のうち、個人市民税は約3億5千8百万円の増、法人市民税は約2億8千6百万円の増を見込んでいます。また、普通交付税は4億7百万円の減を見込んでいます。

〔歳出〕

人件費が増加しているほか、民間保育園運営費や障害者自立支援給付費等の扶助費が引き続き増となっておりますが、骨格予算であることから、新たな施策の経費や投資的経費等を抑えている結果、減となっております。

〔国民健康保険事業特別会計〕

予算総額は2百1億5千万円で、前年度予算に比べ0.8%、1億7千万円の減となっております。

〔歳入〕

保険料のほか、法定負担である国庫支出金、支払基金交付金、都支出金、一般会計からの繰入金等を計上しました。

〔歳出〕

保険給付費を1.9%、約2億2千7百万円の増で見込んでいます。また、地域支援事業費は、前年度から引き続き、介護予防給付から介護予防・日常生活支援総合事業への移行等にかかる経費を計上しました。

〔下水道事業特別会計〕

予算総額は41億7千万円で、前年度予算に比べ1.3%、5千2百万円の増となっております。

〔歳入〕

下水道使用料はほぼ前年度並みとなっております。一般会計繰入金は前年度に比べ10.6%、1億4千4百万円の減を見込んでいます。

〔歳出〕

浸水対策、施設の老朽化対策、地震対策等を中心とした事業を実施します。

	29年度 予算額	28年度 予算額	伸び 率	
一般会計	60,897,000	62,040,000	△1.8	
特別会計	国民健康 保険事業	20,150,000	20,320,000	△0.8
	後期高齢 医療	4,063,000	3,947,000	2.9
	介護保 険事業	13,177,000	12,677,000	3.9
	水道 事業	4,171,000	4,119,000	1.3
	合計	102,458,000	103,103,000	△0.6

一般会計予算に対する各会派の討論 (要旨)

市議会公明党 賛成

通年予算を示すべきだが、必要な予算であると判断

賛成の理由を以下に述べる。①保育所等の増設は評価する。②健康都市宣言への前向きな答弁は大きく評価する。③観光まちづくり協会の活動を評価する。④学校施設の非構造部材の耐震補強の予算が示された。以下指摘として、認定保育所の安定的な経営のため支援のあり方を見直す。透明性確保のため文化振興財団の規約等

フォーラム小平 賛成

骨格での予算編成は理にかなった考え方と評価

賛成の理由を以下に述べる。①学童クラブや認可保育園の新設等、安心して子どもを産み育てることができると期待する。②小・中学校における教育環境整備に加え、地域防災拠点としての機能強化が着実に図られていることを評価する。③子育て中の女性の就業促進事業を拡充する方針である。④市

政和会 反対

議会、市民に対する誠実さの欠如を指摘

反対の理由を以下に述べる。①骨格予算に計上された事業の政策的判断の根拠が明確に説明されず、最優先に取り組みべき事業が先送りされたことは到底認められない。今こそ暫定予算を組むべきではないか。②行財政改革について、受益負担の見直しなど検討事項が本当に実行できるか疑問である。③投資的経費は低迷し、緊縮財政

日本共産党小平市議団 賛成

これまでの施策をさらに前進させる予算と評価

主な賛成理由を以下に述べる。①私立認可保育園7園、小規模保育施設1園の新設等、子育て応援施策の充実が図られていることを大きく評価する。②B型肝炎任意予防接種事業の実施等、市民の命と健康を守る施策の拡充が図られていることを評価する。③スクールソーシャルワーカーが強化され教育環境の充実が図られた。社会

生活者ネットワーク 賛成

特徴的の事業が見えにくいのが妥当な骨格予算と判断

賛成の理由を以下に述べる。①子育て支援では認可保育園7園の新設等、②福祉では障害者差別解消の取り組みなど、③環境では食料資源化推進の本格実施等、④教育では特別支援教室の本格実施等へ一定の評価をする。意見として、職員研修等で政策立案機能の向上を求める。都市基盤整備のあり方への市民意見聴取に柔軟な対応を

緑の党こだいら 反対

各施策への具体的な取り組みが必要な点等を指摘

反対の理由を以下に述べる。①地域連絡会の立ち上げが1か所にとどまり、地域協議会への移行の見直しも全く立っていない。②緑を守る具体的な取り組みが見えない。③将来的に保育園が余ったとどう対応するかの保育計画がない。④文化振興財団の代表理事の報酬額が高すぎないか。⑤形骸化している防災訓練のあり方を見直

ムサシ 反対

補助金改革の姿勢が見えない点等を指摘

反対の理由を以下に述べる。①骨格予算の看板を掲げながら、市の独自予算等、政策的予算を粉飾するやり方は正当とは思えない。②97.8%という高い経常収支比率が示すとおり弾力性に乏しい予算である。財政調整基金等を激減させるなど、将来の見通しが立たない財政状況を打開する姿勢が見えない。③補助金改革の姿勢

都民ファーストの会小平 反対

前市長を見習い暫定予算を提出すべきと指摘

反対の理由は、前市長が提出した予算案が否決され暫定予算を組んだ理由と同じである。以下、17年3月定例会での高橋三男議員の一般会計予算への反対討論を引用する。①市長任期が4月10日までであるにもかかわらず、通年予算を提案する政治姿勢を批判する。市長選挙は市民の生活がかかるリーダーを選ぶ選挙、政策を示し競い合う選挙である。別の市長の誕生を常に考え行動すべきで、暫定予算となるのは当然の帰結である。②全員協議会等の積み上げを無視するものとの発言もあるが、議会制民主主義の根幹の問題で市長の政治姿勢を批判しているのである。③職員から、責任はどうとのかとの不穏当な言動を風聞し大変遺憾に思う。以上、反対討論とする。

新しい議員の紹介

議員も任ま委員も任ま
議員の補欠選挙が4月9日に行われ、山崎とも子氏が当選しました。任期は平成31年4月30日まで、所属する会派、委員会等は次のとおりです。



山崎とも子
生活者ネットワーク
小川町1-3050-2
(事)042-342-4494
厚生委員会
生活者ネットワーク
小川町1-3050-2
(事)042-342-4494
厚生委員会

その他の主な議案

都市計画マスタープラン 全体構想の改定

都市計画マスタープランの改定に当たり、全体構想を議決するものです。

全体構想は3つの項目で構成されており、1つ目のまちの将来像では、みどりつながる快適生活都市こだいらを掲げ、将来像を補完するものとして、誰もが快適さを感じられるまち、小平らしさが受け継がれるまち、人と人がつながるいきいきとしたまちを示しています。

2つ目のまちづくりの目標では、まちの将来像の実現に向けた今後10年間で積極的に取り組むべきまちづくりの目標として、顔をもったまちをつくる、みどりを感ぜられるまちをつくる、にぎわいを育むまちをつくる、ひとにやさしいまちをつくる、市民のちからを活かせるまちをつくるの5つを示しています。

3つ目の将来の都市構造では、市の特徴である多くの鉄道駅やみどり等の拠点とこれらの交流を支えるネットワークの強化を

ら、本条例を制定するものです。施行期日は29年4月1日です。

平成28年度一般会計 補正予算(第6号)

本補正予算は、国の28年度第2次補正予算で措置された補助金を活用した、小・中学校施設改修工事を実施するための経費を計上するほか、都の28年度補正予算で措置された待機児童解消に向けた緊急対策としての補助金を活用し、私立保育園園舎建築補助を増額するものです。このほか、28年度の終盤に当たる補正予算として、歳入、歳出ともに過不足の調整、計数の整理等を行い、今回の補正に伴う余剰財源を活用し基金残高の回復を図ることが主な内容です。また、年度内の完了が見込めない事業等について繰越明許費を設定します。

いきいきこだいら高齢者 見守りの輪条例制定

本条例は、議会基本条例に基づき小平市議会が取り組んでいる、政策課題調査の成果の1つとして提案したものです。

近年、小平市では高齢化が急速に進んでおりひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が年々増加しています。それに伴い生じる問題の1つとして、いわゆる孤立死や孤独死があります。現在市が進めている地域包括ケア推進計画においても、見守り体制の充実が重点施策として挙げられています。地域における人のつながりの希薄化という状況下で、地域全体での見守り活動を推進し、高齢者が孤立することなく、住み慣れた小平でいきいきと笑顔で暮らせる地域社会を実現するためには、市の見守り施策等の着実な実施と新規事業への取り組み、市民全体の意識を向上させるための啓発、関係機関等さまざまな主体の参加を促す必要があることか

議会人事

東京都十一市競輪事業組合議会議員・東京都四市競艇事業組合議会議員
永田 政弘議員

小平市土地開発公社評議員会評議員
小野 高一議員(総務委員長)

木村まゆみ議員(環境建設委員)

川里 春治議員
吉瀬恵美子議員

中江 みわ議員
日向美砂子議員

代表質問

代表質問とは、市政全般について各会派の代表者が行う質問をいいます。

本市議会では、年に1回、3月定例会5日目に行っています。質問時間は会派の所属議員数に応じて決まっており、市長または教育長が答弁します。

今回は、5会派から11件の質問があり、紙面にはその答弁の要旨を掲載しました。

市議会公明党 虹川浩議員

市議会の代表者等を取り残さないユニバーサル社会について

議員 ①SDGsへの見解は。②今後の空き家の活用をどう考えているのか。

市長 ①世界全体で連携して取り組むべきものと認識している。引き続き社会的に弱い立場の人に配慮した取り組みを初め、さまざまな分野で市民の声を聞きながら市政運営に邁進していく。

②空き家等実態調査の結果を踏まえ、庁内検討会議で利活用も含めた今後の総合的な空き家等対策の方向性を検討していく。誰もが取り残されることなく笑顔で暮らし続けられるために

議員 ジェンダー平等の理念を市政に反映させる考えはあるか。市長 29年度に始まる第3次小平アクティブプラン21の改定作業で、国の強調する男性中心型労働慣行の変革等の視点を踏まえ、基本目標等の検討を行った。引き続き、男女共同参画社会の実現を目指していく。

子どもの可能性を生かす誰ひとり取り残さない教育環境の構築

議員 ①28年度の小平市のいじめ認知件数といじめへの対応は。②困難を抱える学校に行けない

日本共産党小平市議団 佐藤充議員

市民の置かれている現状と声にどのように応えるか
議員 近年、貧困と格差の広がりを感ずるがどう捉えるか。貧困の対応策としての施策は。市長 生活困窮者の多くは経済的問題だけでなく家族や健康の問題、社会的孤立等複合的な課題を抱えていると捉えている。

生活困窮者や離職者の生活の安定と自立促進を図るため、関係機関と連携し生活支援や就労支援等の取り組みを進めつつ、子どもの貧困の連鎖の解消につながる学習支援等を推進していく。平成29年度(2017年度)予算案と今後の市の課題について
議員 ①高齢者施策、コミュニティ

包括ケアシステム構築を推進する。コミュニティタクシーは29年度には市内4地域で運行が実施できる見込みである。②より多くの市民に政策形成過程に参加してもらうことや、市民が情報を得やすい取り組みに努めるなどしていく。

生活者ネットワーク 日向美砂子議員

自治基本条例の理念を形にしていこうために
議員 ①参加と協働において、現時点での課題は何と捉えるか。②国及び都との適切な関係をどう考えるか。

市長 ①市民参加による意見聴取の手法について、さらなる工夫が必要であること、職員が地域に積極的にかかわり対話や交流の場を持ち地域活動を支える必要があることである。

議員 平和や憲法について、学び語り合う場を教育委員会としてどのように保障していくか。

教育長 各小・中学校で、人権尊重の精神や国際社会の平和発展に資する心情を育てる指導を、各教科等の目標を踏まえ、意図的、計画的に実施するなどしている。今後も教育課程の適正な編成と実施を通し平和や人権を大切にすることを育っていく。

市長 現段階からの営農環境整備が重要と考えている。認定農業者制度推進による農家の経営基盤の強化や、農業所得の増大に向けた支援等を行っていく。

小平市の教育に係る基本的な方針と取り組み姿勢について
議員 小平市の教育の課題等についてどのような姿勢で臨むのか。

教育長 学力と体力の向上を目指すとともに心身の健康な子どもたちを育むよう努めていく。重要なことは教職員の資質向上、地域、保護者と一緒になって教育を行っていくことだと考える。

フォーラム小平 滝口幸一議員

市長の見据える将来の小平市の姿について
議員 ①行財政改革の自己評価と、改革の成果が将来の小平市の姿に与える影響は。②高齢化対策、少子化対策、災害対策及び都市基盤について、将来の市の姿は。

市長 ①地域力、民活力、行政力の視点で再構築してきた。財政効果は9年間で約17億7千7百万円あったが市財政は厳しさを増しており、民間の力を生かした取り組みが求められる。今後も行財政再構築を進めていく。

②高齢化対策では、地域包括ケア推進計画を策定した。さまざまな担い手と幅広く連携、協働を図り、全ての市民が支援を必要とする高齢者を見守り支え合う地域の実現を目指す。少子

政和会 小野高一議員

都市計画道路等、都市基盤整備がおくれた責任について
議員 住民投票による都市計画道路3・2・8号府中所沢線の事業のおくれと投票に要した多額の費用の責任をどう考えるか。

市長 住民投票条例は、都の広域的視点での道路整備事業に対する住民投票の実施は適当でないとの意見を付した上、市議会

の総意で成立した。27年度末で2割半ばの事業用地の取得と聞いており、着実に事業が進んでいると認識している。

市民が一番求めている自然や農地を含む緑の保全は図られたか
議員 生産緑地の30年経過を見据え、営農を続ける意欲のある重要なことは教職員の資質向上、地域、保護者と一緒になって教育を行っていくことだと考える。

議員 平和や憲法について、学び語り合う場を教育委員会としてどのように保障していくか。

教育長 各小・中学校で、人権尊重の精神や国際社会の平和発展に資する心情を育てる指導を、各教科等の目標を踏まえ、意図的、計画的に実施するなどしている。今後も教育課程の適正な編成と実施を通し平和や人権を大切にすることを育っていく。

市長 現段階からの営農環境整備が重要と考えている。認定農業者制度推進による農家の経営基盤の強化や、農業所得の増大に向けた支援等を行っていく。

小平市の教育に係る基本的な方針と取り組み姿勢について
議員 小平市の教育の課題等についてどのような姿勢で臨むのか。

教育長 学力と体力の向上を目指すとともに心身の健康な子どもたちを育むよう努めていく。重要なことは教職員の資質向上、地域、保護者と一緒になって教育を行っていくことだと考える。

議員 生活者ネットワークの理念を形にしていこうために
議員 ①参加と協働において、現時点での課題は何と捉えるか。②国及び都との適切な関係をどう考えるか。

市長 ①市民参加による意見聴取の手法について、さらなる工夫が必要であること、職員が地域に積極的にかかわり対話や交流の場を持ち地域活動を支える必要があることである。

*1用語の解説については7面をご覧ください。

市政を問う 一般質問要旨

一般質問とは

議員が市政全般にわたり、執行機関に対し、事務の状況及び将来に対する方針等について質問することをいいます。一般質問(要旨)につきましては、議員ごとにまとめたものを掲載しております。これまでの会議録は、小平市議会ホームページで、閲覧・検索ができます。動画もご覧になれます。



佐藤 徹議員 (市議会公明党)
西部地域の交通安全対策/学校トイレとマンホールトイレ整備

小平市西部地域の交通安全対策をさらに進めるべき

質問 ①都市計画道路3・3・3号線延伸にあわせ、美大通り

横断を含め通学路の交通安全注重点を指導すべきだが見解は。

②都市計画道路3・4・23号線、3・3・3号線の街路樹維持管理を、交通安全対策として

定期的実施すべきだが見解は。教育長 ①これまでも児童・生徒の指導等してきたが、改めて

安全確保の認識を学校と共有し、必要な指導を行っていく。

市長 ②両路線とも毎年2回程度剪定しているが、交通量の変化も見込まれるため、より適切



吉瀬恵美子議員 (日本共産党小平市議団)
子育て世代人口推移/多子世帯負担軽減/胸部エックス線検査

市の未来を担う子どもと子育て世代の人口推移と今後の施策は

質問 平成24年の人口推計報告書における平成27年の推計値と、現状の人口推移の違いと特徴は。

市長 27年を18万8千8百32人と予測したが、実績値は19万5人だった。ゼロ歳から14歳の人口は1千6百66人多く、15歳から64歳までの人口も232人多かった。大規模新築住宅へファミリー層が流入し、出産適齢期を迎えていることを要因と見ている。

国民健康保険税の多子世帯の負担軽減で子育て支援の拡充を

質問 子ども子育て支援を本気で

推進する観点から、国民健康保険税の多子世帯の負担軽減策が必要と考えるが見解は。

市長 現在、全国知事会で子どもにかかる均等割保険料の軽減措置の導入を国に要望している。肺がん等早期発見のために特定健診等に胸部エックス線検査を

質問 特定健康診査等の医師の選択検査項目に胸部エックス線の検査を加えてはどうか。

市長 指定医療機関に必ずしもエックス線機器が配備されていないことや、二重読影等できない医療機関は限られることから、特定健康診査、一般健康診査との同時実施は現行では難しい。



伊藤 央議員 (ムサシ)
少子化対策や公平性の観点からも給食の無償化を

小・中学校給食を無償に

質問 ①「子どもを持つ」経済的負担が増す」という考え方が

少子化を招いているのであれば、これを踏まえた少子化対策をしなくてはならない。直近の給食費の未納額は。

②未納対策と教職員の負担は。

③給食提供への未納の影響は。

④都内、全国で給食の無償提供を実施している自治体数は。

⑤給食の無償提供を実施した場合の財政負担は。

⑥給食の無償提供と少子化対策の関連性は。

⑦学校教育における給食の位置づけは。

教育長 ①小学校で63万6千5百26円、中学校で49万7千3百66円である。

②学校長等が納付を働きかけるなどして教職員の負担軽減に努めている。

③未納の割合が低く顕著な影響はない。

④全国55市町村。都内3町村。

⑤年間5億5千万ほどになる。

⑥安心して子育てができる環境づくりの一助になる可能性はある。

⑦児童・生徒の心身の健全な発達に資するものであり食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たす。



小野高一議員 (政和会)
踏切改善、横断歩道、信号設置による交通危険箇所の解消を

青梅街道等の交通安全対策について

質問 ①青梅街道駅南側踏切の拡幅改良による交通危険解消は。

②新小平駅南側山王通り交差点西側への横断歩道の設置を交通管理者へ要望できないか。

③西武国分寺線西側の青梅街道と小川駅通りとの交差点に、信号機設置を交通管理者へ強く要望できないか。

市長 ①27年3月に都と西武鉄道株式会社が現地確認を行った。事故防止対策の実現に向け、引き続き、都及び西武鉄道株式会社に要望していく。

②小平警察署に相談したところ、交差点内の北側には駐車場の出入り口があるため、この場所より西側へ設置した場合、交差点の形状が東西に長くなり、信号が変わる際の車両と歩行者等の接触、衝突の危険性が高まることから、交通安全上、現状では難しいと聞いている。

③小平警察署から、この交差点は西武国分寺線の踏切から直近にあり、信号機を設置した場合、信号の変わり目に無理して踏切を渡ろうとする車両がふえることや、踏切通過直後に信号待ちの車両が停車している可能性があるため、信号設置は難しいと聞いている。今後も現地の安全状況を注視していく。



新小平駅南側山王通り交差点



中江みわ議員 (フォーラム小平)
高齢化ひきこもり/子育て施策/学園東町地域センターの活用

高年齢化するひきこもりに対する支援のあり方について

質問 ①年代ごとなどひきこもりの実態調査が行われているか。

②ひきこもりに関する相談窓口の情報提供等、周知はどのように行っているか。

③高年齢化するひきこもりの人に支援をするべきだが見解は。

市長 ①市ではこれまでに実施したことはない。

②東京都のひきこもりサポートネットや電話やメールによる相談を受けている。

③関係機関と連携を図り、早期に対応し、状況に応じた包括的な支援が必要と捉える。



幸田昌之議員 (市議会公明党)
子どもたちを守る交通安全対策/子どもたちを守る防犯対策を進めよう

子どもたちを守るスクールゾーンの構築を

質問 ①スクールゾーンにA型

バリケード等の交通安全対策がなされている小学校は何か。

②スクールゾーンの安全対策が進まない理由と課題は。

教育長 ①A型バリケードを設置している学校は13校で、いずれの学校でも学校関係者やボランティアによる児童の見守り、交通誘導などが行われている。

②交通規制の道路に車両が入り込んでくるのは運転者が守るべきルールの問題である。今後も交通管理者の協力を得ながら、通学の安全の確保が必要と考える。

質問 ①小学校通学路に設置されている防犯カメラについての学校、保護者、地域の声は。

②自治会や商店会で防犯カメラが設置された地域はあるか。

③公共施設への防犯カメラの設置、未設置の施設数は。

教育長 ①見守り関係者から犯罪抑止効果についての好意的な意見をもらっている。

市長 ②商店会のみで2つの地域に設置されたと聞いている。

③17施設のうち、防犯カメラは74施設に設置されていて、73施設に設置されていない。



子育て支援関連施策と受動喫煙防止施策について

津本裕子議員(市議会公明党)

子育てするならぜったいぜったい小平の実現のために

質問 ①里帰り出産での妊婦健康診査は、病院への直接払いを実施すべきだが、課題は。

②ゆりかご・とうきょう事業の拡大や産後ドゥーラの活用、費用補助をすべきだが見解は。

市長 ①都外受診への直接払いを実施するためには、市と医療機関が個別に委託契約を結ぶ必要があることが課題と考える。

②事業の実施には妊婦の全数面接を要するため、保健師等の配置など検討していく。産後ドゥーラの活用については先進自治体の実施状況を研究していく。

受動喫煙防止について責任ある施策を実施すべき

質問 ①路上喫煙禁止条例等を制定すべきと考えるが見解は。

②駅前には路上喫煙・たばこポイ捨て禁止地区に指定すべきと考えるが見解は。

市長 ①本質的な問題解決には条例等ではなく市民の自律を促す啓発が必要と考える。今後も喫煙マナーアップキャンペーンによりマナー向上に努めていく。

②条例による禁止地区指定は、違反者への対応等の課題もあるため、現在の取り組みの継続により、市全体での歩きたばこやポイ捨ての減少に努めていく。



小池都政が進める施策に対する市の対応と連携について

佐野都夫議員(都民ファーストの会小平)

都政との連携はどのように行っているのか

質問 ①27年度の東京都からの負担金、補助金等の総額は。

②27年度の東京都のこれら支出金が入っている事業の件数は。

市長 ①本質的な問題解決には条例等ではなく市民の自律を促す啓発が必要と考える。今後も喫煙マナーアップキャンペーンによりマナー向上に努めていく。

③小平市の現状を説明し、民間保育園等の運営経費の支援、西武鉄道の連続立体交差や都市計画道路の整備推進、緑の確保や都市農地の保全、都有地や都施設の活用、総合交付金のさ

らなる拡充などを要望した。小池都政が進める無電柱化にどう取り組むのか

質問 ①無電柱化の必要性は。

②市内に電柱は何本あるか。

市長 ①道路の防災性向上、通行空間の安全性の確保、良好な景観の形成等の観点から有効な手法だと認識している。

②市道、都道、私道を含め1万9千6百5本と聞いている。③条例を制定する考えはない。【掲載分以外の質問項目】なぜ十三小の校庭だけが芝生のなか



官公庁オークションの活用と震災時の電力確保について

吉本ゆうすけ議員(フォーラム小平)

官公庁オークションを活用して新たな財源を確保しよう

質問 ①事務用品や公用車等、買い替えが必要になった際の物品の取り扱いについての現状は。

②官公庁オークションの積極的な利用は、財源を生み出すほか市を全国の人に知ってもらう機会にもなると思えるが見解は。

市長 ①所管課が他部署での使用か売却かを判断し、売却可能なら売却し、売却価格が売却費用を償えない、買受人がいらないなどの場合は廃棄している。

②全国に市を知ってもらえるという副次的効果も期待できるので、活用方法を研究していく。

震災時の電力確保について

質問 ①業務継続計画における健康福祉事務センターの非常用発電設備の機材設置状況は。

②現在設置されている非常用発電設備の点検はどのように行われているか。

市長 ①停電時の電力確保のため24年3月に設置した。日常的な使用状況で連続約5時間、電力を供給する性能を備えており、設備の適正な維持管理のため保守点検を実施している。

②法令による点検を実施し、確実に作動するよう適正な管理を行っている。



子ども・若者施策の充実で、希望ある未来を手渡そう

日向美砂子議員(生活者ネットワーク)

子どもや若者が自分らしく元気に暮らせる小平を

質問 ①子どもに関する計画の大もとなる市の考えはどのようなものか。

②子どもにかかわる施策を体系化して仮称子ども総合計画としてまとめ、子どもや若者の課題に対応できる体制をつくれな

市長 ①停電時の電力確保のため24年3月に設置した。日常的な使用状況で連続約5時間、電力を供給する性能を備えており、設備の適正な維持管理のため保守点検を実施している。

②法令による点検を実施し、確実に作動するよう適正な管理を行っている。

子どもや若者が自分らしく元気に暮らせる小平を

質問 ①子どもに関する計画の大もとなる市の考えはどのようなものか。

②子どもにかかわる施策を体系化して仮称子ども総合計画としてまとめ、子どもや若者の課題に対応できる体制をつくれな

市長 ①停電時の電力確保のため24年3月に設置した。日常的な使用状況で連続約5時間、電力を供給する性能を備えており、設備の適正な維持管理のため保守点検を実施している。

②法令による点検を実施し、確実に作動するよう適正な管理を行っている。



◀喫煙マナーアップキャンペーン



認知症の人が安心して暮らせる介護保障と子どもの貧困対策を

木村まゆみ議員(日本共産党小平市議員団)

認知症になっても安心して暮らせる介護保障を

質問 ①介護予防・日常生活支援総合事業への移行によって、現行相当サービスの対象から外される認知症の人への支援は。

②認知症の人は障害者としてもつと認定されるべきと考えるが、現在何人が認定され、その周知は徹底しているか。

市長 ①個人の状態に合わせて、訪問サービスなどの小平市独自基準型サービスなどを利用してもらうことを予定している。

②27年度末での精神障害者保健福祉手帳の取得者は29人である。こだいら認知症ガイドブック

困っている子どもたちのSOSを拾い上げよ

質問 ①見えない貧困の拾い上げと支援のため1つのシグナルになる給食費未納について、その数と支援の働きかけの状況は。

②子ども食堂等のボランティアのネットワークづくりへの支援等は市が行うべきかどうか。

教育長 ①27年度は小学校27人、中学校14人である。家庭の困窮状況がわかった場合は就学援助等の制度を案内することもある。

市長 ②効果的な支援策や民間事業者との連携等について国や都の動向を注視し研究していく。



移動手段の確保／プチ田舎な小平の魅力をもっと磨くために

さとう悦子議員(生活者ネットワーク)

地域の中の移動手段等の確保について

質問 ①地域の中の公共交通の重要性について見解は。

②福祉的な交通体系のあり方を考える情報交換会の開催状況と構成メンバーは。

③徒歩や車椅子、ベビーカーのスムーズな移動のための道路整備状況と今後の計画は。

市長 ①高齢化の進展で、ますます重要になると認識している。②利用者代表、運営事業者、市職員が出席し、5回開催した。③25路線で段差等の改良を実施した。新たに26路線を選定し、順次、改良工事を進めている。

市のキャッチフレーズプチ田舎をもっといかすために

質問 ①こだいら観光まちづくり協会の活動内容は。

②世論調査で35・4%が小平産農産物を購入するようにしているが、どう捉えるか。

③小平産農産物をアピールするために、マルシェの開催やルネこだいらの喫茶室等の活用は有効と考えるが、見解は。

市長 ①総合ガイドブックや観光ポータルサイト作成を行った。②購入機会や購入場所等の情報が不足していると捉えている。③市内農業振興等の視点から有効な手段と認識している。



空き家活用などで居場所を職員1人の生保世帯数を80世帯に

橋本久雄議員(緑の党こだいら)

空き家の活用など地域の居場所をどうつくるのか

質問 ①厚生労働省の「我が事丸ごと」地域共生社会実現本部の報告書では、地域のつながり再構築の必要性が述べられているが市としての評価は。

②実態調査で行政等に空き家を貸す意向のある人数は。

③空き家の利活用を想定しているか。

市長 ①暮らしと生きがい、地域をともにつくる社会の実現には、人と人、人と資源が世代や分野を超えて丸ごとつながることが求められると捉えている。②28人である。

職員1人が担当する生活保護世帯数を80世帯に減らすために

質問 ①職員1人が担当する世帯数が標準世帯数80を大幅に超え12である現状への評価は。

②担当世帯数を減らすための取り組みは。

市長 ①担当世帯数が多いことは認識している。②就労支援プログラムの取り組みや嘱託職員の配置等で事務の効率化等に努めている。

【掲載分以外の質問項目】市民総合体育館は指定管理者になってサービスは向上したか



小型家電回収でオリンピックメダルに貢献/あかずの踏切対策

蛇川 浩議員 (市議会公明党)

ごみ減量と小型家電回収で東京オリンピックメダルに貢献を

質問 ①市内に設置した使用済み小型家電回収ボックス及び宅配による直近の回収量は。

②都と連携し「使用済み小型家電回収で東京オリンピックの金メダルに貢献しよう」キャンペーンで啓発を行うのはどうか。

市長 ①28年1月から12月までの回収量は、ボックスが2千5百49キログラム、宅配便が9千百34キログラムだった。

②都のプロジェクトには市が連携する認定事業者も含まれているため、啓発を含め積極的に協力し、ごみの減量と小型家電



小型家電回収ボックス (市役所1階)

リサイクルの推進を図っていく。

あかずの踏切小平第1号踏切への当面対策を速やかに実施せよ

質問 ①あかずの踏切小平第1号踏切の国における位置づけは。

②これまで国や都、鉄道事業者に対しどのような要望を行い、どのような回答を得ているか。

市長 ①28年6月の踏切安全通行カルテの公表とともに、あかずの踏切として緊急対策の検討が必要な踏切の1つに抽出されている。

②踏切北側及び踏切内の白線とカラー舗装の路面標示について延伸等の要望を行い、現地の路面補修が実施されるなどした。



小平第1号踏切 (小平駅西側)



市の情報公開についての姿勢と考え方

石毛航太郎議員 (フォーラム小平)

市の情報公開についての姿勢と考え方を問う

質問 ①小林市長在任中、約12年間の情報公開についての取り組みは。

②行政文書は市民の財産だと認識しているが、市はどのように捉えているか。

市長 ①市長がかねてより情報公開の必要性を訴えているが、改めて市政運営における情報公開の必要性とは何か。

市長 ①平成27年度予算から、当初予算編成までの流れを市ホームページに掲載し、予算編成過程の透明化を進めてきた。また、パブリックコメントの実施

により市民参加の機会を保障し、市民公募委員を含めた審議会や地域懇談会、ワークショップを開催して、市民との情報共有を推進してきた。

②市政情報は市民共有の知的資源として、市民の財産であると認識している。

③情報公開は市民参加の前提となる。市民が地域の主体として地域自治にかかり、自らの経験や能力を発揮し、誇れるまちづくりの一端を担うためには、市が保有する情報を積極的に開示し、市民同士が議論する過程が必要である。公開と参加が進むことで、活気に満ちた町の実現が図られると考えている。



教育の無償化を目指して/教員の多忙化の解消を

磯山 亮議員 (政和会)

教育の無償化について

質問 ①小学校の移動教室にかかる保護者負担を、完全無償化すべきだが、見解は。

②各中学校の修学旅行の完全無償化や、保護者負担の上限を定め公費補助を行うべきと考えが見解は。

③制服購入に関して、無償化してはどうか。

④幼児教育の無償化は必要と考えるがどうか。

教育長 ①現在のところ、完全無償化の予定はない。②現在のところ、無償化や上限を定めての補助の予定はない。



障害者差別解消法で安心のまちづくり/空き家の対策と活用

平野ひろみ議員 (生活者ネットワーク)

障がいのある人もない人も安心して暮らすまちづくりを

質問 ①障害の特性に応じたコミュニケーション手段利用のための取り組みと課題は。

②市、市民、事業者等が合理的配慮を行うための取り組みは。

③障害者職員採用での配慮は。

市長 ①手話通訳者を40回、要約筆記を5回派遣した。派遣回数が増え通訳者の確保が難しくなることが課題である。



女性視点での災害対策の充実とみなし寡婦控除の拡充を

山岸真知子議員 (市議会公明党)

女性の視点を生かし身近な災害対策の充実を

質問 ①各家庭への簡易トイレの備蓄を進めるべきだが、啓発と配布を検討できないか。

②都が発行予定の女性の視点の防災ブックについて、今後どのように活用するのか。

市長 ①例年実施の総合防災訓練で参加者に使用期限が迫った使い捨てトイレを配布し、備蓄への啓発を行っている。

②家庭での防災力の向上等は、女性が大きな役割を果たすと認識している。女性が防災に関心を持つ仕組みが必要であり、防災ブックはテキストなどとして活用できると期待している。

ひとり親家庭の負担軽減のためみなし寡婦(夫)控除の拡充を

体制の整備等を検討していく。

③個々の受診者に合理的配慮の観点から必要な対応を行う。

空き家対策、空き家の活用に向けて

質問 ①所有者等意識調査からわかる状況等はどうか。

②地域の空き家相談員の派遣、空き家活用に必要な費用の一部助成(京都市の例)の見解は。

市長 ①所有者等の約70%が60歳代以上で、約46%の所有者等に利活用の意向があるが、修繕や耐震化の必要性等、費用面の問題解決が課題と考えている。

②庁内検討会議で今後の総合的な対策の方向性を検討する。



指定学校変更と区域外就学/施策推進には住民に寄り添い説明を

小林洋子議員 (フォーラム小平)

小・中学校の指定学校の変更及び区域外就学について

質問 ①中学では制服等の問題で兄弟が行った学校に通うほうがよい場合もあるが、その判断基準は。

②部活動を審査基準に加えることはできないのか。

③教育的配慮の場合、本人もしくは家族の意見をどのように聞いているのか、判断基準は。

教育長 ①住所により学校を決定、例外として兄弟が在籍中は変更可、卒業後はできない。②考えていない。③それぞれの事情を的確に捉え、個別に判断している。

市民が希望すれば説明会を何度でも開く、個別の説明にも行くなどの考えはあるか。

市長 ①27年度は5回開催し延べ43人、28年度は5回開催し延べ55人の参加。主な意見として、学校施設をコミュニティの核にしてはどうか、行政と民間事業者の連携が大切などがあつた。

②検討手順の中で必要に応じ地域代表者等と意見交換を行う。



小平市商店街の活性化に関する条例の活用

永田政弘議員 (政和会)

小平市商店街の活性化に関する条例のさらなる活用について

質問 ①実績を含めてこれまでの条例を検証しているか。

②街路灯の費用負担について、会員数が減っている商店会の状況は。

③条例の啓発はこれまでどうやってきたか。

④条例を活用すればどういったことが考えられるか。

市長 ①条例施行後、商店会では市内大学との連携イベントがふえている。また、地域の住民と交流を深め、買い物の場としてだけでなく、地域のにぎわいの場を創出し、魅力ある商店街



介護と総合事業／防災と空き家／マイナンバー制度を問う
細谷 正議員 (日本共産党小平市議団)

高齢者介護と総合事業の状況と今後について

質問 生活サポーター養成講座の受講人数は。また、受講後の受講者と市とのかわりは。

市長 修了39人。受講修了者の相談に応じ、今後フォロー講座の開催を予定している。

防災への備えと空き家等の対策について

質問 日野市の空き家住宅等対策計画に対する市の認識は。

市長 総合的な空き家等対策を計画的に進めていく上で、効果が期待できる計画である。また、住宅の耐震化については、建物



働く世代を支援する保育行政／イクボス宣言／乳がん検診
竹井ようこ議員 (フォーラム小平)

働く世代を最大限に支援する保育行政の実現に向けて

質問 ①認可保育園と認証保育所の保育料の差は。

市長 ①認証保育所の保育料を4万円とした場合、該当者が最も多い区分では認可保育園の保育料を3千6百円下回る場合から1万6千6百円上回る場合がある。該当者が次に多い収入約70万円以上の世帯では、認証保育所のほうが8千3百円から1万5千3百円ほど下回る。

②1歳まで家庭での保育を望む場合等には有効な施策である。



災害時の要配慮者対策と市の認知症対策について
滝口幸一議員 (フォーラム小平)

災害時の要配慮者対策の現状と課題について

質問 ①現時点での避難行動要支援者登録名簿の作成状況は。

市長 ①平成21年度から作成し、現在2千8百96人の登録がある。②地域センター等の32施設を指定しており、敷地面積から収容可能人員を想定している。受け入れ態勢については、非常配備体制による職員の配置及び災害ボランティアセンターを通じたボランティアの派遣により対応することとしている。



安全な道路の整備と空き家の現状と対策について
川里春治議員 (政和会)

安全な道路の整備について

質問 ①すいすいプラン実施後、東京街道の西武バス花小金井五丁目停留所付近から道路幅が広がるが境目がわかりづらく危険である。市は認識しているか。

市長 ①都から、事業区域の一部で用地取得ができず未整備箇所があるため、拡幅整備が残っているのと聞いています。引き続き現地の状況を注視していく。

②市報や市民便利帳、窓口で相談があった際などに周知している。今後も制度をより知って

用語の解説

※1SDGsとは Sustainable Development Goalsの略称で、持続可能な開発目標のこと。2015年9月の国連サミットで、誰ひとり取り残さないを理念とした2030アジェンダが採択され、17の目標が設定された。 ※2産後ドゥーラとは 産後支援の専門知識を持ち、出産後から子育てが軌道に乗るまでの母親を支える、一般社団法人からの認定を受けた女性のこと。

常任委員会 所管事務調査報告

小平市議会では、議会基本条例に基づき取り組みの1つとして、4つの常任委員会がそれぞれ課題を設定し、委員間で協議しながら政策提言を行う、政策課題調査を進めています。3月定例会最終日に行われた委員長報告の概要は次のとおりです。

・自助・共助・公助における必要な対策や責務等を定める 外
3 条例制定のプロセス
・素案の策定段階から市民参加と協働を重視する 外
4 制定後の運用
・説明会等の開催で市民の責務への理解を深める 外

厚生委員会 委員長 虻川 浩

調査事項 ①孤立防止について

政策提言 ①孤立を防ぐための高齢者見守り活動の拡充について
1 見守りホットラインの新設
・365日24時間ワンストップの電話窓口をつくる
2 東京都住宅供給公社(JK K)との提携
・市内の都営団地・都民住宅居住者の安否確認体制をつくる
3 事業者及び各種団体との協定締結の推進
・緩やかな見守りの推進のため、地域見守りネットワークを拡充
4 70歳等の実態調査の実施
・支援の網の目から漏れる高齢者の実態把握を行う

環境建設委員会 委員長 木村まゆみ

調査事項 ①自転車の似合うまちづくりについて

政策提言 ①自転車の似合うまちづくりについて
・安全・快適な自転車ライフが楽しめる小平市を目指し、

て広く市民に知らせること
2 自転車関与事故ゼロに向けてルールとマナーの啓発を
3 走りやすい道路づくり…自転車走行空間のさらなる整備を
目指して
4 事故賠償への備えを市民に広める
5 より便利に楽しむために、レンタル自転車の検討を

特別委員会調査等報告

平成27年5月22日に設置された特別委員会は、それぞれ付議事項について調査を行いました。前回の中間報告(平成28年2月23日)以降の経過の概要は次のとおりです。

広聴広報特別委員会 (中間報告その2) 委員長 日向美砂子

開催日 平成27年5月22日、平成29年1月17日(合計23回)

主な内容
・議会傍聴者への配慮について
・市議会だよりの充実について
・議会報告会における意見等の取扱いについて 外

にぎわいまちづくり調査特別委員会 委員長 川里 春治

開催日 平成27年5月22日、平成29年1月18日(合計9回)

主な内容
・ファーマーズ・マーケットの動向とにぎわいの創出について (その1)
・近隣市視察(立川市) 外

公共施設マネジメント調査特別委員会 委員長 永田 政弘

開催日 平成27年5月22日、平成29年1月19日(合計9回)

主な内容
・(仮称)公共施設適正配置実施計画について(その1)
・小平市公共施設マネジメント推進計画(素案)について 外

小平市都市計画マスタープラン全体構想特別委員会 委員長 佐野 郁夫

開催日 平成27年5月22日、平成29年1月13日(合計9回)

主な内容
・小平市都市計画マスタープラン全体構想の改定について(その5) (その8)

市議会を傍聴してみませんか

本会議や委員会は定員の範囲内でどなたでも傍聴することができます。傍聴を希望される方は市役所7階の議会事務局にお越しください。会議当日の午前8時30分から受け付けをしています。なお、小平市議会では、本会議傍聴席への磁気ループの設置と手話通訳者の配置を試

行的に実施しています。(利用には事前申し込みが必要です。) 本会議は3月、6月、9月、12月の年4回開催しており、開会時刻は原則として午前9時です。本会議の日程等詳しいことは議会事務局までお問い合わせいただくか、市議会のホームページをご覧ください。

3月定例会

議案に対する各議員の賛否

会派名略称 ()内は各会派の議員数 公明:市議会公明党(6) フォ:フォーラム小平(6) 政和:政和会(5) 共産:日本共産党小平市議団(4) 生ネ:生活者ネットワーク(3) 緑:緑の党こだいら(1...無会派) ムサ:ムサシ(1...無会派) 都民:都民ファーストの会小平(1...無会派)

Table with columns for district, proposal number, title, result, and member votes (賛成, 反対, 欠席, 退場) for various proposals like '政治分野への男女共同参画を推進するための法整備を求める意見書'.

全会一致で議決した議案※1

Table listing proposals decided unanimously, including 'いきいきこだいら高齢者見守りの輪条例制定' and various budget amendments.

※1 議長は表決に加わりません。
※2 議員提出議案第25号 小林正則市長に対する不信任決議は、地方自治法第178条が規定する特別多数議決に当たるため、議長も表決に加わります。

政治分野への男女共同参画を推進するための法整備を求める意見書
我が国の女性議員の割合(衆議院)9.5%はIPU193か国中17位と低順位になっています。

意見書とは、地方公共団体の公共の利益に関することについて議会としての意思を意見としてまとめ、国会または関係行政庁に文書で提出するものです。(地方自治法第99条)

意見書
3月定例会では1件の意見書を可決し、関係機関へ送付しました。(要旨)

小平市立中央公園内にある井戸を震災時に市民が利用するために、また、市の生活・文化遺産として活用するために、調査、修理、再生してください。

請願
3月定例会では、継続審査となっていた1件の請願を採択しました。採択された請願の請願事項は次のとおりです。

市民と議会の意見交換会を開催します
小平のくらし・健康・まちづくり
あなたの声を聴かせてください
市議会では、今年初めての意見交換会を開催します。たくさんの方からご意見やご提案をいただきたいと考えています。

議員の辞職
2月17日、松岡 篤議員(政和会)から市議会議長に議員辞職を届け出されました。

特別委員会等委員の変更
特別委員会等の委員に変更がありました。委員会の新しい構成は次のとおりです。

会派の異動
佐野郁夫議員が2月16日付で政和会を退会し、都民ファーストの会小平を結成しました。

ありがき
3月定例会では、各会派からの代表質問が行われたほか、平成29年度予算を初め、さまざまな議案について活発な議論が交わされました。